

2025/6/22 「さすがにそれはない」 ルカ 23:32-43 さ 90、せ 588 (626)

今年も弾圧記念日を迎えました。1042 年 6 月 26 日、60 名ほどの牧師が検挙され、実刑 7 名、執行猶予 44 名となりました。先週、訪問した鵜方教会の初代牧師である小出忍先生のお父上、小出朋治先生も殉教者のお一人です。ホーリネスの教会に、その歴史を語り継いで行きましょう。死を超える信仰を私たちも握りましょう。

再臨の信仰

世の中には常識というものが存在します。それは人間は、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも限りある存在だからだと言えます。そしてその範疇を越えると、「さすがに、それはないんじゃない」となります。その基準は、石橋を叩いても渡らない人から、奇跡を最後まで信じようとする人まで、十人十色ですが。

実はそれは、キリスト教信仰の中にも存在します。互いに愛し合ひましょう、両親を敬いましょう。という普遍的な教義に意を唱える人は誰もいません。しかし、処女降誕、罪の贖い、神の子としてのイエス、そして復活と召天という事柄は、「さすがにそれはないんじゃない」という信徒が少なくありません。今朝の再臨の信仰はその最たるものです。この世界は最後の審判があり、再びキリストが来臨するという教えだからです。ブルームノルトは、自宅の庭に再臨の知らせがあればいち早く駆けつけられる馬車を置いて、毎年「今年こそ、キリストは再臨する！」と宣言していたそうですが、2000 年間、再臨がないのだから、恥ずかしい思いをしないようにしたい、多くのクリスチャンがそう思っています。日本基督教団の信仰告白においても、再臨は明確に記されていますが、人間の心理が、殆どこれに沈黙しています。

イエス様の愛

しかし、聖書はこのことを語り伝えなさいと、命じています。

今朝の聖書の箇所は、イエス様の十字架の場面です。ここに、二つのイエス様の言葉が記されています。ご自分を処刑しようとする人々への許しを乞う言葉と、悔い改めた罪人を天国に招く約束の言葉です。実は、ここに歴史上「絶対に起こり得ない」奇跡が起こっていることが証しされています。聖書学者たちは、この言葉も、後から書き加えられたのだと主張する人たちがいますが、それはあまりに出来すぎた奇跡であるという衝撃の反証でしょう。実は、互いに愛し合ひましょう、というメッセージは、実践すればするほど、不可能なことなのだとわかってきます。そして、聖書は、その先に進みなさい、そこにあなたの命も、神の御心も、必ず実現するからと語っているのです。

鵜方教会には「四重の福音」のステンドグラスがありました。最後の信仰の高嶺をめあてに、私たちは歩いていきましょう。弾圧、再臨、そして十字架の贖い。私たちが、沈黙してしまいがちなメッセージこそ、語り継ぐべき、神の愛の証しなのです。